

平成28年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成28年 8月18日(木)
午前10時00分～午後12時00分
場 所 蒲郡市役所新館6階601会議室

1 開会

- 和泉会長挨拶と出欠確認
- 事務局より報告
 - ・ 前回の第1回がまごおり協働まちづくり会議要旨を振り返る
- 結論
 - ・ 会議要旨の承認＝会議要旨の公開

2 議題

(1) まちづくり助成金ワーキングの進捗状況について

ア ワーキングに至った経緯や検討課題について

- 事務局より説明
 - ・ 各ワーキング委員の方へ助成金フルモデルチェンジに至った経緯を説明
 - ・ 件数の伸び悩み、事業分野の偏り、助成団体の継続的な自立の3点の課題に対して、解決策として「新しい目的」「新しい申請基準」の見直しの検討要請
 - ・ 見直しによる新制度の検討
 - ・ 今年度のワーキング会議目標
- 以上を含めた議論に着手しました。

イ ワーキングによる議論の主な内容について

- エントリー容易に活用できる新部門の検討
 - ・ 件数の伸び悩み対策としてこれまで助成金に関わってこなかったような若者世代や子育てによって様々な社会課題を認識する世代に対する掘り起こしにより改善されるのではないか？
- 調査費用枠の検討
 - ・ 見学に行って調査の実施を認めていたらどうか
- 保留制度の検討
 - ・ 事業内容は良いが計画が煮詰まっていないものについて、一時的に保留をしてその間に計画を詰めさせてもらうのはどうか？

ウ 委員より質問および指摘事項

- ・ 食材についての助成はしてもらえないか？2団体からそういった相談があった
 - ランニングコストの検討時に、それをどこまで認めていくか課題にすべき
 - 行政の助成金では難しいが、モリコロ基金では認められているため、そちらの活用も考えてもらってはどうか
- ・ 新たな掘り起こしとしてそのターゲット層へどのように周知活動をしていくのか？
 - PRについてはこれまでも課題である

- プランニングサポート事業や育成事業枠で検討していきたい
- ・まちひとしごと戦略会議でも取り上げられている定住人口が増えるような助成金の活かしていくことが大切
 - 使い勝手が良い+効果がある＝1番良い
 - 公金である以上は説明責任があるが、使い勝手の悪さになっているのであれば議論が必要である
- ・子育て世代部門の設置であれば、子育て支援施策の後押しをしたらどうか
- ・いろんな専門家で良い意見が出ると思うが、蒲郡市に合うものか？は別の話しであるため、蒲郡市として効果策なのかは考える必要がある
- ・助成金申請ができるように力を蓄えていただければ、他の助成金も活用できてくるため、申請時のハードルを下げるだけでなく、団体育成を充実させていくことも考えられる
- ・活動団体が使い易いようにしてもらいたい

エ 結論

- ・各委員の指摘事項を含めて、ワーキング会議を進めてもらう

(2) 次年度の協働モデル事業について

- 事務局から資料4、5について説明
 - ・協働モデル事業の提案にあたり過去の実績を紹介
 - ・直近3年の過去実績を含む「協働モデル事業ヒアリングシート」による提案方法の説明と提案依頼
- 会長より「モデル事業」の定義確認
 - ・モデル事業のモデルとは、他の参考となるのがモデルである
 - ・ここでモデル事業を提案していただくのは、市民団体や行政の参考となる内容の提案が求められる
- 委員質問等
 - ・協働モデル事業は、試験なのか？模範なのか？
 - ・助成金は報告会があるが、モデル事業を実施していても市民に認識してもらえない。市民に認識してもらう報告会を実施しても良いか？
- 結論
 - ・各委員より「協働モデル事業ヒアリングシート」を提出してもらう
 - ・今後のまちづくり会議にて協働モデル事業化の検討を進めていく

3 その他

- 次回以降スケジュールについて
 - ・次回は10月下旬頃予定

欠席者 西川委員、山本委員、小林浩委員、小林英委員、原野委員
数11人中出席委員6人（会議成立）